

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 25
2018. 5

TOPICS

1

岡山大学病院で国内初の 体格差のある脳死肺移植を実施



岡山大学病院で4月27日、重い肺の病気を患う50代女性への脳死肺移植を行い、体格差のある脳死ドナー（臓器提供者）と患者（レシピエント）間の移植に成功しました。厚生労働省が脳死ドナーよりも体格の小さいレシピエントに脳死移植が行えるよう2014年3月に基準改正して以降、国内では初の適用例です。

患者は、膠原病の合併症により間質性肺炎を患っていた50代の女性。肺移植しか助かる方法がありませんでしたが生体肺移植できる親族がおらず、体格に比べて肺が小さくなり、病状の進行も速かったため今年3月5日に臓器移植ネットワークに登録し待機していました。手術は臓器移植医療センターの大藤剛宏教授の執刀で27日午前11時ごろから始まり、脳死ドナーから提供された両肺の一部を女性の両肺にそれぞれ移植し、約7時間半後に終了しました。女性の容体は安定しており、3カ月ほどで退院できる見込みです。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7538.html

TOPICS

2

倉敷市教育委員会との連携協力に関する協定を締結

本学は5月9日、倉敷市教育委員会との連携協力に関する協定を締結しました。本協定は、倉敷市教育委員会と岡山大学が相互に連携協力を図り、教育上の諸課題に適切に対応するとともに、双方の教育の充実、発展に資することを目的としています。

この日学長室で行われた調印式では、協定書の概要説明が行われた後、井上正義倉敷市教育委員会教育長と榎野博史学長が協定書に署名しました。

榎野学長は、調印式の中で「本協定は、これまで倉敷市教育委員会と本学との間で実施してきた取り組みをより一層充実させるものです。今後は組織的に継続的な連携を推進し、地域教育のさらなる充実に貢献していきたい」とあいさつしました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7533.html

最近の大学の取り組み

岡山大学公式Instagramアカウントを開設



本学は5月23日、公式Instagramを開設しました。岡山大学の“今”を写真や動画で紹介します。ぜひフォローをお願いします。

【公式アカウントはこちら】

https://www.instagram.com/okayama_university/

【アプリをお持ちの方は】

@okayama_university

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7559.html

TOPICS

3

「健康フェスタin Okayama」を開催



本学は、5月3日、4日の2日間、岡山コンベンションセンターで「健康フェスタin Okayama」(本学・山陽新聞社など共催)を初めて開催しました。本フェスタは、本学医学部創立150周年記念プロジェクトならびに持続可能な開発目標(SDGs)支援プロジェクトとして、あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進することを目的としています。

本学の教授陣らによる2つの特別講演、18の公開講座、健康・医療情報に関する展示・体験ブースが用意され、2日間で延べ約4,000人が健康についての知識を深めました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7526.html

宮地准教授が
文部科学大臣表彰を受賞

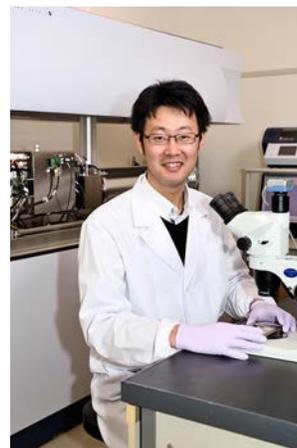
TOPICS

4

岡山大学自然生命科学研究支援センターゲノム・プロテオーム解析部門の宮地孝明准教授は、「創薬を指向した真核生物トランスポーターの構造と機能の研究」の業績により、4月17日、「平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞」を受賞しました。

文部科学大臣は、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術の水準の向上に寄与することを目的として科学技術に関する研究開発、理解増進などにおいて顕著な成果を収めた者を表彰しています。「若手科学者賞」は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究など、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた40歳未満の若手研究者が対象とされ、平成30年度は応募者数300名、授賞者数99名でした。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7529.html



TOPICS

5

岡山大学卒業生が文学界で活躍!!

公益財団法人日本文学振興会が主催する「大宅壮一メモリアル日本ノンフィクション大賞」の発表が5月9日行われ、本学文学部の卒業生である森功(もり いさお)氏が大賞を受賞しました。同賞は、日本を代表するジャーナリストでノンフィクション作家であった大宅壮一氏の業績を記念したもので、1970年から優れたノンフィクション作品を表彰しています。

さらに5月11日には、医学部保健学科卒業の小説家・今村昌弘さんの「屍人荘の殺人」(東京創元社)が本格ミステリ大賞小説部門(本格ミステリ作家クラブ主催)を受賞しました。同作は「このミステリーがすごい! 2018」第1位、「2018 週刊文春ミステリーベスト10」第1位、「2018 本格ミステリ・ベスト10」第1位に続き、ミステリ4冠達成です。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7545.html

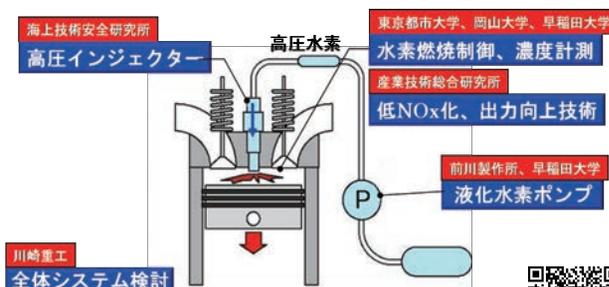
PRESS
RELEASE 1大型発電用、高出力・高熱効率・低NO_x水素エンジンの
燃焼技術を開発～地球温暖化など大気環境保全への貢献も期待～

産業技術総合研究所、岡山大学、東京都市大学、早稲田大学の研究グループは、試験用小型エンジンを用いた基礎実験で、水素燃料の優れた燃焼特性を活用した新しい燃焼方式を確立し、世界初となる高熱効率・低NO_xを実現できる火花点火水素エンジンの開発に成功しました。この研究開発は、化石燃料への依存を低減し二酸化炭素排出を削減するため、水素燃料の用途を拡大する一環として行われました。

開発した水素エンジンの出力は、これまでに類を見ない図示平均有効圧力(燃焼室の位置で示すエンジンの仕事量の指標)を達成し、大型発電用や船舶用エンジンの燃料に使用できることを確認しました。今後、再生可能な一次エネルギー源からの製造が可能な水素エネルギーを活用することにより、地球温暖化防止や大気環境保全にも貢献することが期待されます。

目標性能：熱効率50%*、NO_x200ppm以下

(*低位発熱量換算における7MW級エンジン単体の正味熱効率)



参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id536.html

